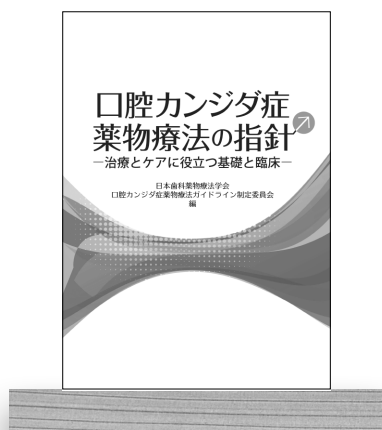


歯科医療従事者は必読の一冊！



### 口腔カンジダ症薬物療法の指針 —治療とケアに役立つ基礎と臨床—

日本歯科薬物療法学会 編

B5判/72頁 定価：本体 3,600円＋税  
医歯薬出版（2016年3月）

がん・感染症センター都立駒込病院  
看護部歯科口腔外科

評・池上由美子（歯科衛生士）



現在日本では、2人に1人が何らかのがんに罹患し、いままさに、100万人を超える人が、がんと闘っているといわれています。さらに、日本の社会は世界的にも類をみない超高齢社会に突入していきます。このような社会的背景もあり、歯科衛生士の働くフィールドで高齢のがん患者と対峙していく機会は増加していくでしょう。口腔カンジダ症は、がん治療中の患者さんや高齢者に多くみられる疾患であり、ほかにも糖尿病患者、HIV感染者、在宅や施設で緩和ケア中の患者さん、新生児や小児にもみられます。しかし、さまざまな種類がある口腔カンジダ症を臨床現場で見きわめることは、なかなか難しいのではないのでしょうか？

本書は、口腔カンジダ症の基礎知識から診断についてまで詳細に語られ、口腔カンジダ症の症状や口腔カンジダ属が関連する疾患から口腔カンジダの予防に至るまで、非常に簡潔に述べ

られています。また章ごとに、columnやQ & Aなどが掲載されており、最新の情報も知ることができます。

私が歯科衛生士の皆さんに特に読んでいただきたいのが3章から6章です。まず、3章「口腔カンジダ症の症状」では、高齢者、HIV感染者（AIDS）、週術期（がん・脳血管障害患者・緩和ケア）、新生児・小児、口腔乾燥症の5つのカテゴリーに分けて、そのさまざまな口腔症状が豊富な写真で、わかりやすくまとめられています。必ず臨床現場での口腔衛生指導に役立つことでしょう。

次に、4章の「口腔カンジダ属が関連する疾患」です。舌痛とカンジダ、味覚とカンジダ、口内炎とカンジダなどについて、詳細に口腔内写真を用いて説明されています。「この症状も口腔カンジダと関連があったのか！」とびっくりされる歯科衛生士の方も多いのではないのでしょうか。

そして5章「口腔カンジダ症の薬物療法」では、本書が日本歯科薬物療法学会による編著でもあることから抗真菌薬の使用法、各種含嗽剤の抗真菌活性と使用方法などについて、薬剤の作用機序や使用法、注意点まで網羅されており、非常に充実した内容になっています。特に口腔ケアを行ううえで必要な抗真菌活性のある、各種含嗽剤や口腔化粧品（保湿剤など）の使用について参考になる点も多いと思います。

最後に6章「口腔カンジダ症の予防」では、口腔カンジダ症の発生機序と予防が解説されており、患者さんへの義歯清掃の必要性や注意点について指導する際に、その根拠をしっかりとお話できるという点で役立ちます。本書をぜひ診療室のチェアサイドや歯科訪問診療へ向かう際に手に取っていただけたら、口腔カンジダ症の患者さんへの歯科衛生士としての新たな役割がみえてくるのではないかと思います。